

9-1-①. 具体的施策の紹介・成果

【高齢者の事故防止】

従来、講義のみであった講習に実技体験を加えることで、自らの体力等に応じた行動を意識付け

1-① 高齢者を対象とした交通安全講習 **（取り組み開始時）**



SCIによる
取組充実

9-1-②. 具体的施策の紹介・成果

【高齢者の事故防止】

1-② 運動能力や身体機能に 着目した啓発・講習の実施 (取り組み見直し後)

「運転に不安を覚える人が事故を起こす前に
運転を止める」という観点でも予防を図る

体力の変化を認識した行動・安全運転を呼びかけていた1-①の取り組みに加え、
運転免許自主返納制度の周知などを実施



最近、車の運転に
自信がないなあ



思い切って！
事故を起こす前に
運転を卒業しよう！

運転免許自主返納制度

運転に不安があったり、高齢などの理由により、
自主的に自動車等の運転をやめたい方が、
公安委員会に申請して、免許を取り消す制度。

【高齢者の事故防止】

運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施（取り組み見直し後）

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	①高齢者交通安全講習の実施回数	142回	46回	34回	30回	40回
活動	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	2017年(H29)より実施				10回
短期	講習参加者の意識変化	2017年(H29)より調査				59.1%
中期	運転免許自主返納者数	市町村別の統計なし			509人	1,268人
長期	①第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数	500件	513件	517件	515件	482件
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	70.3件	69.5件	68.0件	66.0件	60.3件

9-2. 具体的施策の紹介・成果

【高齢者の事故防止】

夜間・薄暮時に車両から早期に発見されることで
交通事故を回避

明るい服及び反射材着用キャンペーンの実施



みんなで取り組む安全安心まちづくり

SCIによる
取組充実

【高齢者の事故防止】

明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	キャンペーンの実施回数 出前講座の実施回数	9回 6回	9回 14回	11回 11回	11回 12回	10回 4回
短期	出前講座受講者の意識の変化	2017年(H29)より調査				59.1%
中期	反射材の着用率（必ず身につけている人の割合）	2017年(H29)より調査				7.5%
長期	①高齢者の夕方・夜間（15-21時）の交通事故発生件数	294件	283件	272件	275件	249件
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	41.4件	38.3件	35.8件	35.2件	31.2件

9-3. 具体的施策の紹介・成果

【高齢者の事故防止】

交通事故の発生が予測される危険箇所を周知
保護誘導活動などに活用

安全安心マップの作成



SCIによる
新規取組

【高齢者の事故防止】

安全安心マップの作成

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	対策委員会と協働によりマップ作成に取り組んだ校区数	1校区	1校区 (2校区)	—	1校区 (3校区)	2校区 (5校区)
短期	マップ作成した校区の交通事故発生件数（前年比）	38件 (-2)	107件 (-21)	120件 (+13)	240件 (-4)	410件 (-33)
中期	マップの作成、交通安全に取り組んでる校区	—	31校区	—	—	—
長期	①高齢者の交通事故発生件数	812件	797件	814件	792件	734件
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	114.2件	107.9件	107.0件	101.5件	92.1件

9-4. 具体的施策の紹介・成果

【自転車事故の防止】

交通安全教室の実施

地域のボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施
従来、小学校高学年対象であった自転車教室を
中学校・高校に拡大



SCIによる
取組充実

【自転車の事故防止】

交通安全教室の実施

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	実施回数・参加者数	200回 24,716人	149回 20,223人	164回 19,537人	192回 19,436人	247回 26,851人
短期	交通ルールを知っている・ 守っている人の割合(若年層)	63.2%	58.7%	70.6%	59.6%	56.1%
中期	19歳以下の自転車関連 事故件数	194件	189件	177件	163件	136件
長期	自転車の交通事故発生件数	523件	471件	458件	403件	368件

9-5. 具体的施策の紹介・成果

【自転車事故の防止】

自転車利用者を対象に、街頭キャンペーンによる
ルール・マナーの周知・徹底を図る

自転車安全利用キャンペーンの実施



SCIによる
新規取組

【自転車の事故防止】

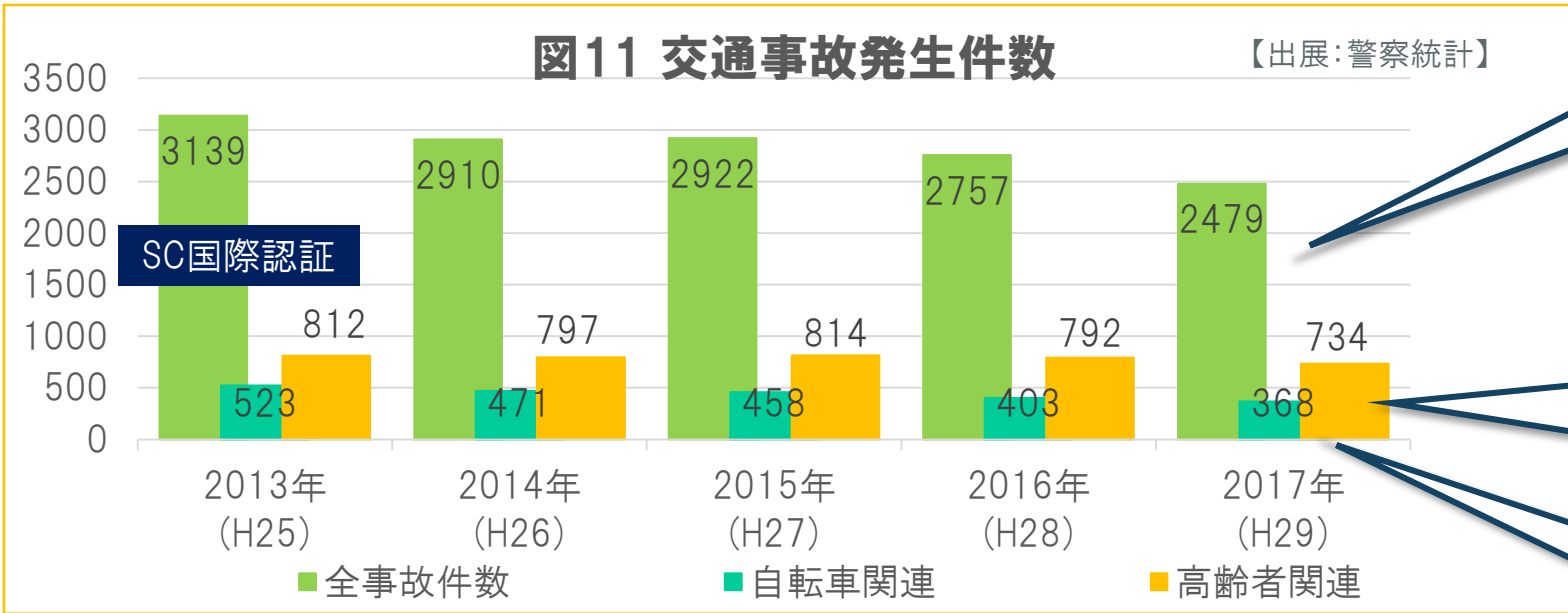
自転車安全利用キャンペーンの実施

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	実施回数・配布物数	18回 約3,000セット	12回 約4,200セット	10回 約3,800セット	13回 約4,000セット	14回 約4,160セット
短期	交通ルールを知っている・ 守っている人の割合(全体)	67.2%	66.6%	74.9%	75.6%	70.6%
中期	20歳以上の自転車関連 事故件数	329件	282件	281件	240件	232件
長期	自転車の交通事故発生件数	523件	471件	458件	403件	368件

10-1. 取り組みによる全体的な成果

図11 交通事故発生件数

【出展：警察統計】



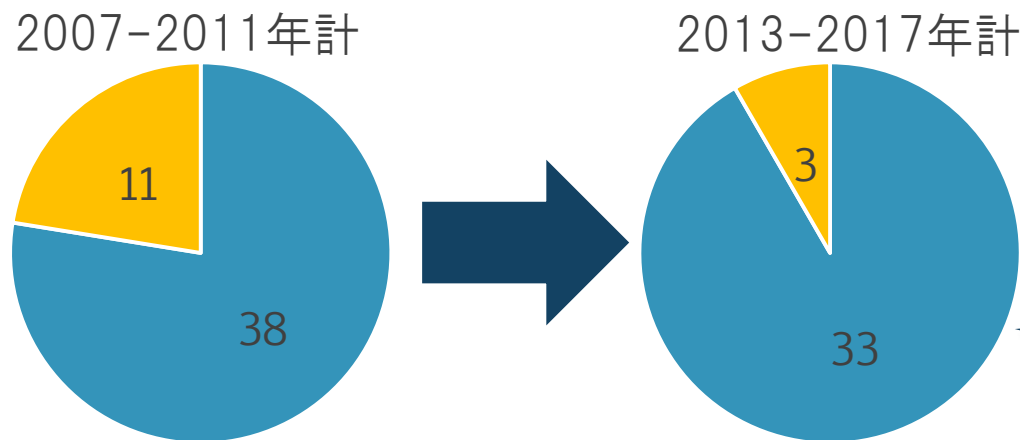
交通事故全体の発生件数は減少！

高齢者関連の交通事故発生件数は横ばい
→取り組みの見直しにより今後の動向を注視

自転車関連の交通事故発生件数は減少！
ルールを守っている割合も増加

交通事故死者に占める高齢歩行者の割合は減少！

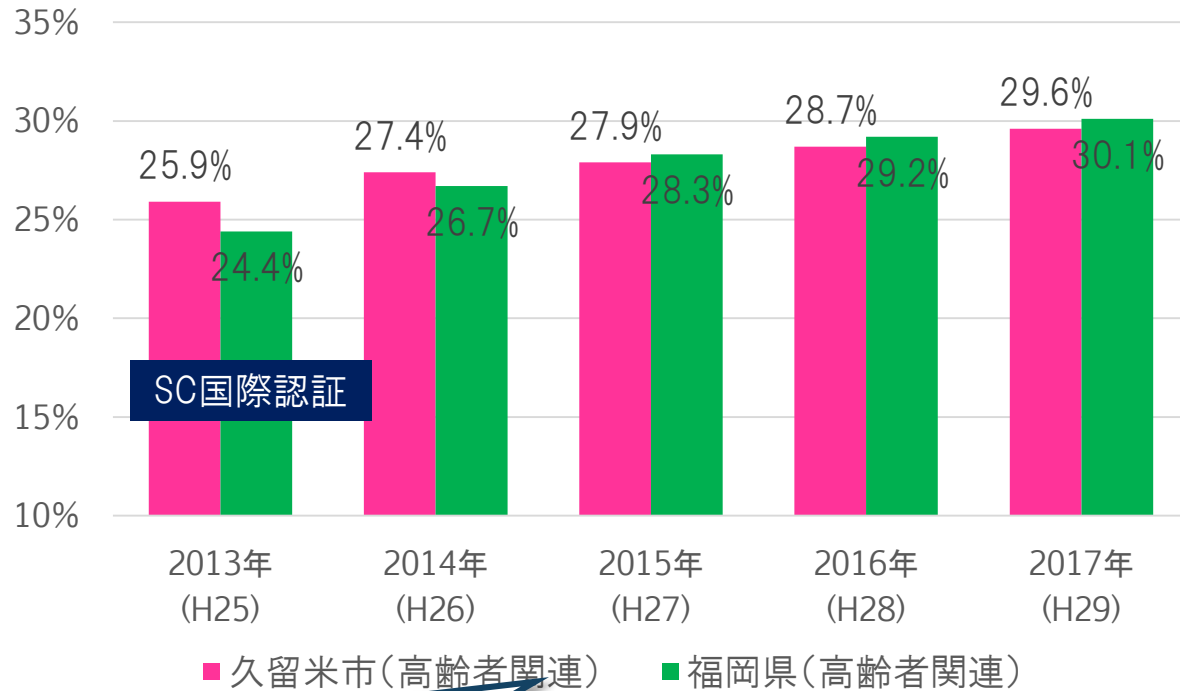
図12 交通事故死者に占める高齢歩行者の割合



10-2. 取り組みによる全体的な成果

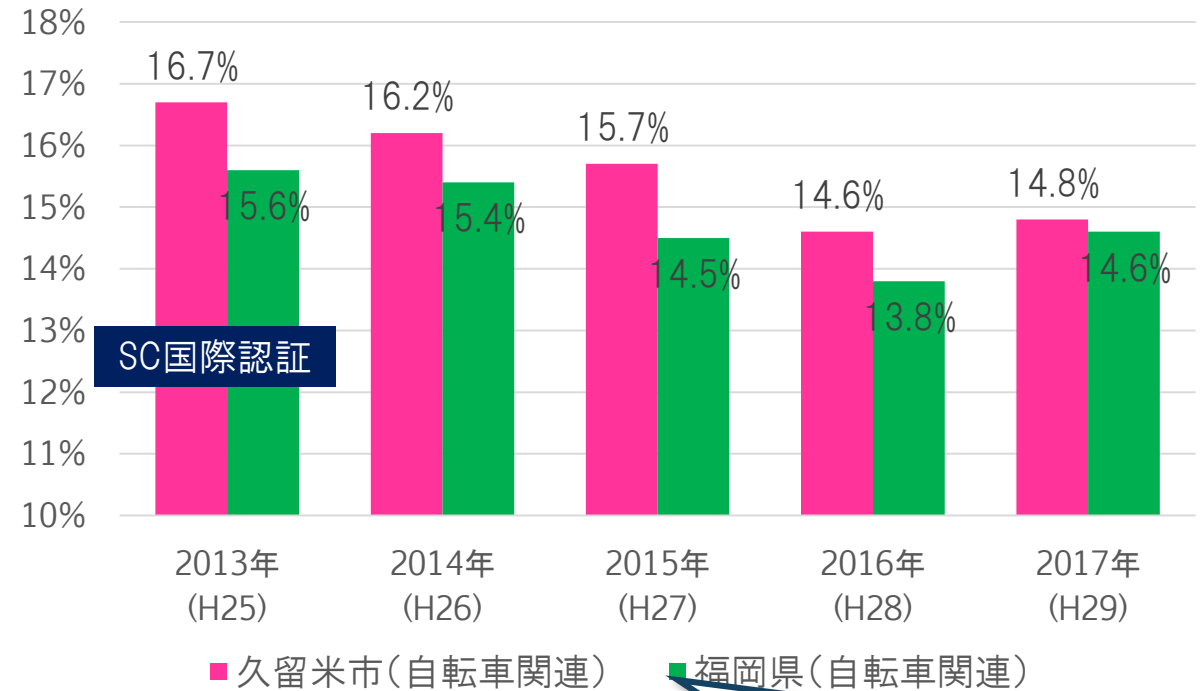
【出展：警察統計】

全事故に占める高齢者関連事故の割合



高齢者関連事故の割合は増加しているが、伸び率は抑えられ、県平均を下回った

全事故に占める自転車関連事故の割合



県平均と比べると、割合は高いが、自転車関連事故の割合は減少傾向

11. 2017年10月の事前指導での助言

高齢者向けの環境整備が必要では

環境整備（ハード事業）については、行政が対応
これまで整備してきた一例をあげると・・・



ゾーン30



自転車走行空間



12-1. 認証取得後の変化・気づき

協力者の拡大



トラック協会、タクシー協会、
バス会社、学生ボランティア、
自転車商組合、保護司会 … など

街頭キャンペーン等に協力する団体の拡大



防犯対策委員会との連携

青パト活動団体の夜間防犯パトロール時、
反射材を身に着けていない人がいたら
交通安全の趣旨を伝えたいうえで、反射材を
渡してもらおうよう、連携

他の対策委員会との連携

12-2. 認証取得後の変化・気づき

関連事業の展開



高校生による討論会in久留米(2015年～)
(久留米市非行を生まない社会づくり推進対策本部主催)

「自転車の乗車マナー」について、市内の高等学校の生徒会役員が討論。

参加者の意識を高め、その内容を生徒会活動に活かすとともに、
高校生の考えを聞くことで、関係団体の取り組みにフィードバック。

交通事故を予防し、安全安心のまちづくりを進めることを
目的に、民間企業から“交通教室用 信号機”寄附

団体の広報誌等に自主的に交通安全の啓発記事掲載

自主的な啓発チラシの設置(医療機関の待合室など)

… など、多様な協力・支援



多様な協力・支援形態

13. 今後の課題

課題

高齢者関連事故（加害事故）への対応

高齢運転者対策の充実（情報発信、免許自主返納制度の周知等）を図り、歯止めをかける

課題

中学・高校生に対する更なる教育の充実

全校での交通安全教室実施を目指す

課題

より効果的な啓発・普及活動の実施

より多くの方へ啓発できるように、啓発のバリエーションを増やす
多くの機関・団体との連携を深め、あらゆる方面から情報発信

ご清聴ありがとうございました。



交通安全対策委員会